



電信寫

照得 九二九六 時 北京 七月十一日後着

田中 外務大臣 芳澤 公使

第一〇二六號

德電第一〇〇四號ニ關シ

七月十日唐僑民ヲ外交部ニ答訪シタル際唐ハ濟南事件ニ付テハ日本政府ハ外交的交渉ヲ開始スルコトトナリタルヤト尋ネタルニ付本使ハ國民政府ハ日本政府ノ外交的交渉ニ應スル準備ヲ整ヘタリヤト反問シタルニ唐ハ否自分ノ質問ハ且ニ自己一己ノ考ニテ爲シタルモノナリト答ヘタルニ付本使ハ自己トシテハ過日述ヘタル如ク濟南事件ヲ成ルヘク速ニ解決スルヲ兩國間交渉ノ爲得策ト信スル

次第ナルカ日本政府ニ於テモ或ハ外交的交渉開始方ヲ考慮シツツアルヤ測リ難キモ今日ノ處何等ノ訓令ニ據シ居ラスト答ヘ置キタリ  
上海 南京ヘ轉電セリ

S 11104 410-2

S 11194 410-1



電信案

夕三

別電上先ニ濟南青島上海南京へ転電アリ

外務省

S 11104 412

(原議用紙乙) 圓納

300

電送第 5844 號

昭和 3 年 7 月 11 日 2 時 40 分發

務

電信課長

主任 亞細亞局長 (田中)

主任 亞細亞局長 (田中)

三年七月十日

件 濟南事件解決交渉

宛 在支 芳澤公使

發 田中大陸

暗 第三三七號 極秘

濟南事件解決ニ関スル條件案別電中ニ是等  
 通 十日同條ノ方解ヲ經タリ交渉ノ時期不場所  
 其他ニ関シテ造テ決定シ合ナルカ右極秘ノ而  
 合送不取敢

外務省

S 11104 411

(原議用紙甲) 圓納

299

高

電送第 5845 號  
昭和 3 年 7 月 11 日 午後 2 時 40 分發

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 圓納

301

主管 亞細亞局長

主任 亞細亞課長

(起章 昭和三年七月十日)

件 濟南事件解決交渉

名込綴

田中大臣

宛

在立 芳沢公使

發

暗

第 三三八 號

極秘

別電

濟南事件解決条件案

(一) 謝罪

國民政府其軍隊ノ和ニ加工タル在座於案行

電信案

外務省

S 11104 413

302

(原議用紙乙) 圓納

撫奪ニ對シ帝國政府謝罪スルヲ

(二) 謝罪

和ニ加工タル在座於案行ニ及

軍隊ノ幹部及加害者ヲ嚴罰ニ及ニ其ノ

旨ヲ國民政府ノ名ニ於テ濟南市内ニ告示スル

ヲトシテ其ノ案行ス

(三) 損害賠償

電信案

外務省

S 11104 414

在兩國之別ニ規定スルヲ

右期向ニ日本軍隊撤退時ノ状況ニ基キ日

南及青島等ノ商埠地内ニ駐屯スルヲ

變化ヲ防ク爲一定ノ期向ニ日本軍隊ニ清

一〇) 日本軍隊撤退後ニ於ケル急激ナル事態ノ

一律之重シク禁止スル旨聲明スルヲ

直接ニ動ヲ誘致スル如ク排日排外宣傳ニ

(原議用紙乙) 四捨

S

11104

416

ニ保護ノ責ニ任ズルヲ及民無軍隊等ノ

一〇) 國民政府ニ在田民ノ生命財產ニ對シ完全

四) 將來ノ保障

一〇) 掠夺破壊等ニ對シ損害賠償債

金ノ支拂

一〇) 負傷者及暴行ヲ受ケタル者ニ對シ慰籍

一〇) 慘死者ニ對シ弔慰金ノ支拂

(原議用紙乙) 四捨

S

11104

415

六日本軍隊ノ残留期間ニ事端防止ノ見地ヨリ

多ク変更ヲ加ルベシト得

情勢ト本邦例ノ事ヲ知ルベシトテ東ニ適

条件ヨリ本邦例ノ事ヲ知ルベシトテ東ニ適

レハ遲滞ヲク全部撤退スルキヲ撤退シ

ニ於テ居留民ニ長慮ノ慮ナシト認ムルニ至

ハ本邦例ニ於テ前記保障ヲ実行シ且日本例

(原議用紙乙) 四折

S

11104

418

二居留民保護ノカメ山東方面ニ在ル日本軍隊

諒解事項

五漢口南京事件ヲ解決スルニ

一必要ナル協定ヲ為スベシ

鉄道ノ交通ヲ確保スル目的ヲ以テ日支

財産ノ保護ヲ一層確實ニスル事ナリ

(ハ) 清邦及膠濟鉄道沿線居留民ノ生命

(原議用紙乙) 四折

S

11104

417

極

濟南事件解決條件

(一) 謝罪  
 國民政府ハ其ノ軍隊ノ邦人ニ加エタル虐殺暴行擄奪ニ對シ帝國政府ニ謝罪スルコト

(二) 處罰  
 邦人ヲ虐殺シ暴行ヲ加エ又ハ擄奪ヲ行ヒタル支那軍隊ノ幹部及加害者ヲ懲罰ニ處シ其ノ首ヲ國民政府ノ名ニ於テ濟南市内ニ告示スルコト

(三) 損害賠償  
 (1) 慘死者ニ對スル弔慰金ノ支拂  
 (2) 負傷者及暴行ヲ受ケタル者ニ對スル慰藉金ノ支拂

外務省

S 11104 420

308

(赤梓紙)

電信案

外務省

フト

濟南青島及膠濟鐵道沿線三千五里ノ範圍内ニ支那軍隊ヲ駐屯セシメサル

(原議用紙乙) 四折

307

S 11104 419

(イ) 掠奪破壊等ニ對スル損害賠償

(四) 將來ノ保障

(1) 國民政府ハ在留民ノ生命財産ニ對シ完全ニ保護ノ責ニ任スルコト及民衆軍隊等ノ直接行動ヲ誘發スルカ如キ排日排外宣傳ハ一律之レヲ禁止スヘキ旨聲明スルコト

(2) 日本軍隊撤退後ニ於ケル急激ナル事態ノ變化ヲ防ク爲一定ノ期間支那軍隊ハ濟南及青島等ノ商埠地内ニ駐屯セサルコト

右期間ハ日本軍隊撤退時ノ狀況ニ基キ日支兩國間ニ別ニ協定スルコト

(3) 濟南及膠濟鐵道沿線居留民ノ生命財産ノ保護ヲ一層確實ニスル爲メ同鐵道ノ交通ヲ確保スル目的ヲ以テ日支間ニ必要ナル協定

11104 421

ヲ爲スコト

(四) 漢口、南京事件ヲ解決スルコト

諒解事項

一 居留民保護ノ爲メ山東方面ニ在ル日本軍隊ハ支那側ニ於テ前記保障ヲ實行シ且日本側ニ於テ居留民ニ危險ノ虞ナシト認ムルニ至レハ遲滞ナク全部撤退スヘキコト

二 日本軍隊ノ殘留期間ハ事端防止ノ見地ヨリ濟南青島及膠濟鐵道沿線二十支里ノ範圍内ニハ支那軍隊ヲ駐屯セシメサルコト

11104 422

海軍

電信寫

(分類 1110.2-9)

記録件 濟南事件 解決交渉手帳

昭和3 九三八八

南京

七月十三日前着

亞

田中外務大臣  
二九一  
一九一號

岡本領事

昨十一日會見ノ際周龍光ハ「王部長初メ我々モ濟南事件ノ速ナル

解決ヲ希望シ居リ崔交渉員モ其ノ爲泰安ヨリ歸來セル次第ニシテ

外交部側ニ誠意ナシトノ巷説ハ當ラス唐次長ヨリノ電報ニ依リ芳

澤公使カ濟南事件ノ解決乃至新條約締結ニ對シ頗ル誠意アル所説

ヲ違ヘラレタリトノ報告ニ接シ王部長モ大ニ満足シ居ル次第ニシ

テ王部長ヨリ自分及崔士傑ニ對シ兩人ノ内何レカ其ノ衝ニ當ル様

申聞ケラレ居リ上海金交渉員ヲシテ交渉セシムル旨命シタリトノ

噂真ナラス云々ト述ヘタリ

崔士傑ハ本十二日泰安ニ向ヒタルカ其ノ前二回本官ヲ來訪シ頗リ

ニ濟南事件解決ニ關シ何等ノ消息ナキヤヲ尋ネタルニ付本官ハ全

然何事ヲモ承知セス乍併事ハ山東省ニ起リタル次第ナルヲ以テ同

地交渉員タル貴下ト濟南或ハ青島總領事トノ間ニ交渉スヘキニ非

スヤト云ヒタル處自分(崔)之カ衝ニ當ルハ辭セサル處ナルモ濟

南或ハ青島ニ於テ交渉ヲ開始スルヲ欲セスト述ヘ居リタリ御參考

迄

北京、上海、濟南へ轉電セリ

S 11104 424

S 11104 423

311



電信課長

電信案

電信課長

主任

主任

年 月 日

(原議用紙甲) 圖精

大正  
陸軍省  
海軍省  
外務省  
逕達

情報部

亞細亞

電送第 2929 號  
3年7月13日 8時10分發

往電第三三七號ニ關シ

第 三四九 號

極秘

宛 在支 芳澤公使

發 田中外務大臣

件名 濟南事件交渉ニ關スル件

名込綴

濟南事件ノ解決方ニツキテハ各方面種々ノ意見有ルモ政府ハ大局上ヨリ本件ハ本件タケトシテ解決ヲ計ルヲ得策ナリトシ從來此種事件ノ解決條件トシテ踏襲セラレタル謝罪、處罰、賠償保障ノ四項ノ要

外務省

S 11104 425

312

(原議用紙乙) 圖精

電 信 案	外 務 省	求ニ止メタル次第ナルモ近來同種事件ノ頻發ニ顧ミ最モ重キヲ將來ノ保障ニ置ク次第ナリ從ツテ保障ノ種類ハ單ニ文書ノ保障ニ止メス具体的ノ保障方法ヲモ加エタル次第ナルノミナラス文書ノ保障ニ於テモ從來ノ如キ御座ナリノモノニ満足セス若シ此保障ヲ裏切り我居留民ノ生命財産ニ危險ヲ生スルカ如キ事態ヲ惹起スルニ於テハ其結果ハ極メテ重大ナルモノ有ルコトヲ明カニシ置クカ如キ方法ヲ執リ置クコトト致度意嚮ニテ右方法ノ一トシテハ例ヘハ支那
-------------	-------------	---

S 11104 426

313

(原議用紙乙) 圖納

政府ヨリ在留日本人ノ生命財産ニ對シ完全ニ保障ノ責ニ任スヘキコトヲ申越サシメ之レニ對シ日本政府ヨリ日本ハ支那ノ保障ニ信賴スルモ爾後萬一支那官憲ノ取締不充分ナル結果又々日本居留民ノ生命財産ニ危害生スルカ如キコトアリタル場合ニハ日本政府ハ最早支那官憲ノ誠意ヲ認メ難シトアキラメ其ノ必要且適切ト認ムル手段ヲ取ラサルヲ得サルヘク其結果ハ極メテ重大ナルモノ有ルヘキニ付豫メ承知シ置カレ度旨覆答スルコトトスルカ如キモ一方法ナリト思考シ

電信案

外務省

314

S 11104 427

315

(原議用紙乙) 圖納

居レリ、次ニ保障ノ一方法トシテ山東鐵道ノ交通確保ニツキ日支間ニ協定ヲ爲スコトノ一項ヲ設ケタルハ右交通確保カ濟南及山東鐵道ノ沿線ニ於ケル日本居留民ノ生命財産ノ保護ニ必要ナルヲ勿論山東鐵道ニ對シ我權利擁護ノ點ヨリモ必要ナル次第ニシテ例ハ鐵道ヲ良好ノ状態ニ保全シ車輛ノ散逸ヲ防止シ又ハ鐵道收入ヲ軍費等ニ使用スルカ爲鐵道自体ノ改善ヲ疎ニスルカ如キヲ豫防スル等ノコトハ交通確保ノ爲メ必要ナリトノ見地ニ基キ此ノ目的ノ爲

電信案

外務省

S 11104 428



電 信 案	外 務 省	<p style="text-align: right;">(原議用紙乙) 國精</p> <p>長ニ面會シ本大臣ノ訓令トシテ日本ノ山東出兵ハ何等北伐軍阻止ノ意圖ヲ有セサリシコトニ五月三日ノ出來事カ節制ナキ南軍ノ一部ニヨリ惹起セラレタルコトハ如何ニモ遺憾ニ堪エサルコトニ其後日本軍ノ執リタル措置ガ軍及居留民保護ノ爲已ムヲ得サリシモノナルコトハ唐殺事件ガ日本ノ輿論ヲ沸騰セシメタルコトヲ述ヘ只政府トシテハ日支國交上一日モ速カニ本件ノ如キ不祥事件ヲ解決スルヲ大局上可ナリト認メ今回國民政府ノ謝罪、責任者ノ處罰、日本居留民</p>
-------------	-------------	---

319

S 11104 432

電 信 案		外 務 省	
暗	第一五七號	<p style="text-align: right;">(原議用紙甲) 國精</p> <p>件 濟南事件交渉ニ関スル件</p> <p>宛 在上海 矢田總領事</p> <p>發 田中大臣</p> <p>名 込 級</p> <p>管主 亞細亞局長 (起草大正 年 月 日)</p> <p>任主</p> <p>件 濟南事件交渉ニ関スル件</p> <p>宛 在上海 矢田總領事</p> <p>發 田中大臣</p> <p>名 込 級</p>	<p style="text-align: right;">(原議用紙甲) 國精</p> <p>318</p>

318

S 11104 431

電 信 案

外 務 省

ニシ置ク方得策ナリト思考シ貴官ガ王外交部長ニ申入レラルル當日  
 ラザルガ故ニ我方公正ノ態度ハ中外ニ對シ早キニ及ンデ之レヲ明瞭  
 ニ濟南事件ハ我方ノ誠意ニ拘ラス解決或ハ延引スルヤノ懸念無キニア  
 度  
 スル次第ナル旨適宜敷衍ノ上我方主旨ヲ徹底セシムル様御配慮アリ  
 尙ホ南京漢口事件ノ如キ同種ノ事件ハ此際是非トモ一併解決ヲ切望  
 テ全力ヲ擧ケテ國家建設ノ大業ニ猛進セムコトヲ希望セサルヲ得ス  
 (原議用紙乙) 國精

S 11104 434

321

電 信 案

外 務 省

ノ生命身体財産ニ加ヘラレタル損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四條件ノ  
 基礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルコトニ決定シ在青島藤田總領事及在濟  
 南西田總領事代理ヲシテ本件交渉ニ當ラシムルコトト爲シ同官等ハ  
 何時ニテモ交渉ニ應スルノ用意有ルニ付國民政府ニ於テ速カニ全權  
 ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派遣シ以テ本件ノ解決ヲ圖ラレ度日本ト  
 シテハ國民政府ガ東部統一ノ事業ヲ完成セラレムトシツツ有ル事實  
 ヲ慶祝スルト共ニ此際本件ノ如キ不愉快ナル事件ハ潔ク之ヲ解決シ  
 (原議用紙乙) 國精

S 11104 433

320

電送第 自 5939 號  
至 5944 號  
昭和 7 年 7 月 18 日 8 時 30 分 發

電 信 案	外 務 省	第一五七號 (全文転電)	右方在 上海 法領事館 定電報	宛	件	主 管	電信課長 長 亞細亞局長 主任 (起草大正 年 月 日) (原議用紙甲) 國研
				青島 河相 法領事館 代理 令 第二六二號	在 支 牙 澤 公 使 濟南 事件 交渉 之 關係 件	名 込 綴	
				發			
					田 中 大 臣		

S 11104 436

323

電 信 案	外 務 省	北京宛往電第三三八號條件ノ詳細ハ愈々交渉開始ノ遲ヒトナリタル 上ニテ初メテ支那側ニ開示スヘク其レ迄ハ我方要求ハ單ニ謝罪、損 害賠償及保障ノ四項ニ出テサル旨陳述スルニ止ルモノトス 北京 濟南 青島 南 市 入 館 在 支 牙 澤 公 使 承知有リ度 王部長ニ申入ノ報告ニ接シタル上ニテ新聞ニモ發表ノ筈ナルニ付御 ヲ期シ、當地英米佛伊ノ各大使ニハ右申入ノ事實ヲ內告シ又貴官ヨリ
-------------	-------------	--

S 11104 435

322

歐米局長

電送第6014-5  
3年7月18日 12時15分發

電 信 案	件 在英 佐分利代理大使 在米 澤田代理大使	主 任 亞細亞局長 （起草大體和案七月廿七日）	電 信 課 長 （印）
外 務 省	名 込 級 田中外務大臣	發	

件 濟南事件交渉之關係件

主 任 亞細亞局長

電 信 課 長

（原議用紙甲）圖

325

S 11104 438

電送第5931-36號  
3年7月13日 8時0分發

電 信 案	件 濟南事件交渉之關係件 在英 佐分利代理大使 在米 澤田代理大使	主 任 亞細亞局長 （起草大體和案七月廿七日）	電 信 課 長 （印）
外 務 省	名 込 級 田中外務大臣	發	

件 濟南事件交渉之關係件

主 任 亞細亞局長

電 信 課 長

（原議用紙甲）圖

324

S 11104 437

軍阻止ノ意圖ヲ有セザリシト(一)五月三日ノ出来事カ  
 節制ナキ南軍ノ一部ニ依リ惹起セラレタルコトハ如何ニモ  
 遺憾ニ堪ヘサルヲ(二)其後日本軍ノ執リタル措置カ  
 軍及居留民保護ノ為己ラヲ得サリシモノナルト(四)唐  
 殺事件カ日本ノ輿論ヲ沸騰セシメタルヲ述ベル  
 政府トシテハ日支互支上一日モ遅カニ本件ノ如キ不祥事  
 件ヲ解決スルヲ大向上可ナリト認め今白土氏政府ノ謝

(原議用紙乙) 四 四

326

電信案

外務省

S 11104 439

罪 責任者ノ處罰 日本居留民ノ生命身作財産  
 二加ヘラレタル損害ノ賠償 将来ノ保障ノ四條件ノ基  
 礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルニ決定シ在青島藤  
 田總領事及在濟南西田總領事代理ヲシテ本件交渉  
 二當ラシムルヲ為シ同官等ハ何時ニテモ交渉ニ應ズル  
 ノ用意アルニ付中央政府ハ於テ速カニ全権ヲ有スル交渉  
 委員ヲ濟南ニ派遣シ以テ本件ノ解決ヲ圖ラシ度尙

(原議用紙乙) 四 四

327

電信案

外務省

S 11104 440



電信案

外務省

附記スルヲ

り但レ右内容ニ實質的交渉ノ開始迄ハ支那側ニモ  
用事セサルニ付極材ノ旨ト改サレテ

莫先ノ分ニ「傳」俟、獨、白、露ニ轉電レ傳ヲ

聯盟事案事務局乃杉村ニ轉報セシメテ度レト

(原議用紙乙) 圖納

329

S 11104 442

電信案

外務省

南京漢口事件ノ如ク同種ノ事件ハ此際是非共一併  
解決ヲ切望スル旨ヲ申入レシムルニトセリ

二、濟南事件ノ解決方ニ付テハ各方面種々ノ意見アルモ  
政府ハ大局上ヲ考慮シテ事件ヲ解決ヲ計ルヲ  
得兼ト認メ従来此ノ種事件ノ解決條件トシテ踏扱  
セラシムル謝罪、處罰、賠償、及ヒ保障ノ四項ノ要求ニ止  
メタル次第ニテ其ノ内容ハ別電令第ニ五六號ノ通リノ十

(原議用紙乙) 圖納

328

S 11104 441

極秘

濟南事件解決條件

(一) 謝罪  
國民政府ハ其ノ軍隊ノ邦人ニ加エタル虐殺暴行掠奪ニ對シ帝國政府ニ謝罪スルコト

(二) 處罰  
邦人ヲ虐殺シ暴行ヲ加エ又ハ掠奪ヲ行ヒタル支那軍隊ノ幹部及加害者ヲ嚴罰ニ處シ其ノ旨ヲ國民政府ノ名ニ於テ濟南市内ニ告示スルコト

(三) 損害賠償  
(1) 慘死者ニ對スル弔慰金ノ支拂  
(2) 負傷者及暴行ヲ受ケタル者ニ對スル慰藉金ノ支拂

外務省

S 11104 444

(赤梓紙)

331

電送第 6010-6011 號  
昭和3年7月18日 1時 0分發

歐米局長

電 信 案	件 濟南事件交渉ノ因ニ件(別電)	管 主 長 官
外 務 省	宛 在英 佐分利代理大使 在米 澤田代理大使	任 主 長 官
	合 第 二六六 號	記 録
	本文別紙一通	名 込 級
	田中外務大臣	

電信課長

電信案

昭和三年七月二十日

(原議用紙甲) 國

S 11104 443

330

(イ) 掠奪破壊等ニ對スル損害賠償

(四) 將來ノ保障

(1) 國民政府ハ在留民ノ生命財産ニ對シ完全ニ保護ノ責ニ任スルコト及民衆軍隊等ノ直接行動ヲ誘發スルカ如キ排日排外宣傳ハ一律之レヲ禁止スヘキ旨聲明スルコト

(ロ) 日本軍隊撤退後ニ於ケル急激ナル事態ノ變化ヲ防ク爲一定ノ期間支那軍隊ハ濟南及青島等ノ商埠地内ニ駐屯セサルコト  
右期間ハ日本軍隊撤退時ノ狀況ニ基キ日支兩國間ニ別ニ協定スルコト

(ハ) 濟南及膠濟鐵道沿線居留民ノ生命財産ノ保護ヲ一層確實ニスル爲ノ同鐵道ノ交通ヲ確保スル目的ヲ以テ日支間ニ必要ナル協定

(赤梓紙)

外務省

S 11104 445

ヲ爲スコト

(四) 漢口、南京事件ヲ解決スルコト

諒解事項

一 居留民保護ノ爲メ山東方面ニ在ル日本軍隊ハ支那側ニ於テ前記保障ヲ實行シ且日本側ニ於テ居留民ニ危險ノ虞ナシト認ムルニ至レハ遲滞ナク全部撤退スヘキコト

二 日本軍隊ノ残留期間ハ事端防止ノ見地ヨリ濟南青島及膠濟鐵道沿線二十支里ノ範圍内ニハ支那軍隊ヲ駐屯セシメサルコト

(赤梓紙)

外務省

S 11104 446

秘

濟南事件交渉ニ關スル件

昭和三年七月十八日  
(大臣ヨリ英米佛伊代表者ニ對スル談話要領案)

總ニ帝國政府ガ山東地方ニ軍隊ヲ派遣シタル目的ガ全ク同地方在留邦人保護ニ在リテ何等内政干涉殊ニ北伐軍阻止ノ如キ意圖ヲ有セザリシコトハ當時政府ノ特ニ聲明シタル所ナリ然ルニ圖ラズモ五月三日濟南事件ノ突發ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナルガ該事件ハ過般帝國政府ノ發表シタル聲明書ニ明カナル通り節制ナキ南軍ノ一部ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ之ニ對シ日本軍ノ執リタル措置ハ軍及居留民保護ノ爲全ク已ムヲ得ザルニ出デタルモノニ外ナラズ從テ本事件ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコト明カニシテ又本虐殺事件

外務省

(赤 梓 紙)

334

S 11104 447

335

(赤 梓 紙)

ガ本邦輿論ヲ異常ニ沸騰セシメタルハ御承知ノ通りナリ然レドモ帝國政府トシテハ日支間ノ親善關係ヲ維持スルノ見地ヨリ國民政府ノ謝罪、責任者ノ處罰、日本居留民ノ生命身体財産ニ加ヘラレタル損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四條件ノ基礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルコトニ決定シ在上海帝國總領事ヲシテ國民政府ニ右ノ趣旨ヲ申入レシメ同時ニ日本側ニ於テハ青島總領事及濟南總領事代理ヲシテ濟南ニ於テ本件交渉ニ當ラシムル筈ナルニ付國民政府ニ於テモ速カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派シ至急本件ヲ解決セシメラレ度旨要求セシムルコト、セリ  
尙我派遣軍ハ前述ノ如ク居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キサルヲ以テ此ノ見地ヨリ軍隊派駐ノ必要無シト認ムルニ至ラバ全部撤退スベ

外務省

S 11104 448

キコト勿論ナルガ不幸濟南事件ノ突發ニ依リ同地方ノ感情著シク險  
 惡トナリタルノミナラズ今尙便衣隊ノ襲撃事件等絶エザル状態ナル  
 爲遺憾乍ラ今日直チニ全部撤兵ノ連ビニ至リ難シ然レドモ濟南事件  
 ニシテ速カニ解決セラル、ニ於テハ同地方ノ感情モ少ナカラズ緩和  
 セラルベク從テ撤兵ノ時期ヲ早ムルノ效果アルベシト信ズ但シ派遣  
 軍ノ兵力ハ濟南事件前後特殊ノ狀況ニ基キタルモノナレバ必ズシモ  
 現在ノ兵力ヲ全部維持スルノ要無キヲ以テ漸次減兵ヲ行フ方針ナリ  
 現ニ事件直後支那沿岸及揚子江流域各地ニ増派シタル軍艦ハ客月中  
 旬ヨリ逐次固有ノ部隊ニ復歸セシメツ、アリテ既ニ大部分ノ引揚ヲ  
 了シタルガ山東派遣ノ陸兵ニ付テモ差當リ先ヅ第三師團ノ豫後備兵  
 ナ歸還セシメ約七千ノ召集解除ヲ行フコト、ナレリ

(赤梓紙)

336

外務省

S 11104 449

即團ヲ遣送シテハ決定ナリ

(赤梓紙)

337

外務省

S 11104 450



秘

濟南事件交渉ニ關スル件

(昭和三年七月十七日)  
大臣ヨリ英米佛伊代表者ニ對スル談話要領案)

幾ニ帝國政府ガ山東地方ニ軍隊ヲ派遣シタル目的ガ全ク同地方在留邦人保護ニ在リテ何等内政干渉殊ニ北伐軍阻止ノ如キ意圖ヲ有セザリシコトハ當時政府ノ特ニ聲明シタル所ナリ然ルニ圖ラズモ五月三日濟南事件ノ突發ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナルガ該事件ハ過般帝國政府ノ發表シタル聲明書ニ明カナル通り節制ナキ南軍ノ一部ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ之ニ對シ日本軍ノ執リタル措置ハ軍及居留民保護ノ爲全ク已ムヲ得ザルニ出デタルモノニ外ナラズ從テ本事件ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコト明カニシテ又本虐殺事件

(昭和三年七月十七日)

(赤梓紙)

外務省

S 11104 451

(赤梓紙)

ガ本邦輿論ヲ異常ニ沸騰セシメタルハ御承知ノ通りナリ然レドモ帝國政府トシテハ日支間ノ親善關係ヲ維持スルノ見地ヨリ國民政府ノ謝罪、責任者ノ處罰、日本居留民ノ生命身体財産ニ加ヘラレタル損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四條件ノ基礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルコトニ決定シ在上海帝國總領事ヲシテ國民政府ニ右ノ趣旨ヲ申入レシメ同時ニ日本側ニ於テハ青島總領事及濟南總領事代理ヲシテ濟南ニ於テ本件交渉ニ當ラシムル筈ナルニ付國民政府ニ於テモ儘カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派シ至急本件ヲ解決セシメラレ度旨要求セシムルコトトセリ  
尙我派遣軍ハ前述ノ如ク居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キササルヲ以テ此ノ見地ヨリ軍隊派駐ノ必要無シト認ムルニ至ラバ全部撤退スベ

外務省

S 11104 452

秘

キコト勿論ナルガ不幸濟南事件ノ突發ニ依リ同地方ノ感情著シク險  
惡トナリタルノミナラズ今尙便衣隊ノ襲撃事件等絶エザル状態ナル  
爲遺憾乍ラ今日直チニ全部撤兵ノ運ビニ至リ難シ然レドモ濟南事件  
ニシテ速カニ解決セラルルニ於テハ同地方ノ感情モ少ナカラズ緩和  
セラルベク從テ撤兵ノ時期ヲ早ムルノ效果アルベシト信ズ但シ派遣  
軍ノ兵力ハ濟南事件前後特殊ノ狀況ニ基キタルモノナレバ必ズシモ  
現在ノ兵力ヲ全部維持スルノ要無キヲ以テ漸次減兵ヲ行フ方針ナリ  
現ニ事件直後支那沿岸及揚子江流域各地ニ増派シタル軍艦ハ客月中  
旬ヨリ逐次固有ノ部隊ニ復歸セシメツツアリテ既ニ大部分ノ引揚ヲ  
了シタルガ山東派遣ノ陸兵ニ付テモ差當リ先ヅ第三師團ノ豫後備兵  
ヲ歸還セシメ約七千ノ召集解除ヲ行フコトナレリ

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 11104 453

340

大臣會見録

中 地 十五

七月十八日午後五時田中大臣ハ伊(大使)米(代理大使)「ネビル」  
英(二等書記官「ビーク」)及佛(三等書記官「ドブレル」)  
ノ各代表者ノ來訪ヲ求メラレ本日御足勞ヲ願ヒタルハ濟南事件交  
涉ニ關シ帝國政府ノ執ラントスル措置ニ付御話シ致度所アリタル  
カ爲ナリトテ、  
曩ニ帝國政府カ山東地方ニ軍隊ヲ派遣シタル目的カ全ク同地方在  
留邦人保護ニ在リテ何等内政干涉殊ニ北伐軍阻止ノ如キ意圖ヲ有  
セサリシコトハ當時政府ノ特ニ聲明シタル所ナリ然ルニ圖ラスモ  
五月三日濟南事件ノ突發ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナルカ  
該事件ハ過般帝國政府ノ發表シタル聲明書ニ明カナル通り節制ナ

外 務 省

S 11104 454

341

中南軍ノ一部ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ之ニ對シ日本軍ノ執リタル措置ハ軍及居留民保護ノ爲全ク已ムヲ得サルニ出テタルモノニ外ナラス從テ本事件ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコト明カニシテ又本虐殺事件カ本邦輿論ヲ異常ニ沸騰セシメタルハ御承知ノ通りナリ

然レトモ右支那側ノ責任竝我方ノ激昂セル輿論ニ拘ラス帝國政府トシテハ日支間ノ親善關係ヲ維持スルノ見地ヨリ國民政府ノ謝罪、責任者ノ處罰、日本居留民ノ生命身體財產ニ加ヘラレタル損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四條件ノ基礎ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルコトニ決定シ在上海帝國總領事ヲシテ國民政府ニ右ノ趣旨ヲ申入レシメ同時ニ日本側ニ於テハ青島總領事及濟南總領事代理ヲシテ濟南ニ

外務省

343

S 11104 455

342

於テ本件交渉ニ當ラシムル筈ナルニ付國民政府ニ於テモ速カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派シ至急本件ヲ解決セシメラレ度旨要求セシムルコトトセリ

尙我派遣軍ハ前述ノ如ク居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キサルヲ以テ此ノ見地ヨリ軍隊派駐ノ必要無シト認ムルニ至ラハ全部撤退スヘキコト勿論ナルカ不幸濟南事件ノ突發ニ依リ同地方ノ感情著シク險惡トナリタルノミナラス今尙便衣隊ノ襲撃事件等絶エサル状態ナル爲遺憾乍ラ今日直チニ全部撤兵ノ運ヒニ至リ難シ然レトモ濟南事件ニシテ速カニ解決セラルルニ於テハ同地方ノ感情モ少ナカラス緩和セラルヘク從テ撤兵ノ時期ヲ早ムルノ效果アルヘシト信ス元來派遣軍ノ兵力ハ濟南事件前後特殊ノ狀況ニ基キタルモ

外務省

S 11104 456



ノナレハ必スシモ現在ノ兵力ヲ全部維持スルノ要無キヲ以テ漸次  
減兵ヲ行フ方針ナリ現ニ事件直後支那沿岸及揚子江流域各地ニ増  
派シタル軍艦ハ客月中旬ヨリ逐次固有ノ部隊ニ復歸セシメツツア  
リテ既ニ大部分ノ引揚ヲ了シタルカ山東派遣ノ陸兵ニ付テモ差當  
リ先ツ第三師團ノ豫後備兵ヲ歸還セシメ約七千ノ召集解除ヲ行フ  
コトトナレリ尙遠カラス第六師團五千ノ兵ヲモ漸次歸還ノ運ヒニ  
至ラシムル豫定ナリ

尙天津ニ増派シタル軍隊モ漸次歸還セシムル積リナルモ北支ニ於  
テ所謂南方四巨頭カ果シテ協調ヲ保チ以テ時局ヲ平和裡ニ收拾シ  
行クヤ甚タ疑問アリ且又奉天軍ニシテ今尙關内ニ駐マレルモノモ  
アリ殊ニ深州附近ニハ張宗昌ノ敗兵約四萬モアリテ何時又天津ニ

外 務 省

S 11104 457

逆進シ來ルヤモ計ラレス旁々以テ天津ニ増派シタル軍隊モ今直ク  
ニハ其全部ヲ引揚ケシムル能ハサル次第ナリ  
ト述ヘラレタルニ米代理大使ヨリ便衣隊ナルモノノ性質組織等ニ  
付又伊國大使ヨリ張宗昌ノ何人ナリヤニ付質問アリ大臣ヨリ適當  
説明ヲ與ヘラレタルカ  
更ニ佛國大使代理ヨリ交渉條件ノ第四即チ將來ニ對スル保障ニ付  
テハ如何ナル種類程度ノモノヲ以テ満足セララルル御見込ナリヤ將  
又今回ノ交渉ハ單ニ濟南事件ナル事實問題ヲ解決セラレントスル  
モノニシテ國民政府ノ地位ニ關スル法律問題トハ別個ノ問題ナリ  
ト解スル處其通りナリヤ自分ノ大使ニ報告スル都合モアリ御尋ネ  
スル次第ナリト述ヘタルニ對シ

外 務 省

S 11104 458

大臣ヨリ保障ニ付テハ先ツ國民政府ヲシテ將來完全有效ニ在留民ノ保護ニ任スヘキコトヲ聲明セシムルコト必要ナリ但シ之ハ約束丈ケニテハ效果ナキニ依リ之ニ關聯シ夫々具體的ノ措置ヲ講セシメサルヘカラス例ヘハ商埠地内ノ秩序維持ノ爲メ特別ノ警察制度ヲ執ラシムル等モ一方法ナルヘキモ最モ重要ナルハ膠濟鐵道ノ交通ヲ確保セシムヘキコトニアリ元來同鐵道ノ附屬財産ハ日本側ニ抵當トナリ居レルニ拘ラス從來軍閥ノ爲メ勝手ニ機關車、車輛等ヲ他線ニ流用シ若クハ線路ノ如キモ全ク手入レテセサリシ狀態ニシテ之ニテハ將來事アル日到底交通確保ノ實ヲ上クルコト能ハサルカ故ニ之等ノ點ヲ匡正セシムル必要モアルヘシ、第二問ハ御説ノ通り政府ノ承認問題等トハ關係ナシ此點ハ既ニ昨年モ南京事件

外務省

S 11104 459

346

解決ノ爲メ未タ承認ヲ與ヘサル南京當局ト交渉ヲ開始シタルコトアルト同一ナリト答ヘラレタリ

(昭和三年七月十九日澤田電信課長口述)

外務省

S 11104 460

347

亞細亞局

昭和三年七月十八日

信局手帳

348

亞細亞局  
極秘

電報 (至急)

昭和三年七月十八日  
午後七時七分著

參謀總長宛

第六師團長

濟謀第一三九號

次長電第一七七及西田總領事宛外相電  
敬承。濟南事件交渉地點ニ就キテハ今日迄  
ノ北京及上海方面支那側各界ノ空氣ニ徴シ  
此兩地ニ於テ行フコトハ絕對ニ避ケラレ度シ  
南已ムヲ得サレハ青島又ハ東京ニテ行ハレ  
コトヲ切望ス尙本交渉ニ當ルハ文武官ニハ是非  
共一應濟南及膠濟鐵道沿線ヲ實地調査セ  
シムラルル要アルコト濟謀第一三九號ノ如シ尙文

611.031d

涉關係者中ニ此事件ニ直接關係セシモノ若干  
ヲ參加セシムラルルコト特ニ少要ナリト信ス

11104 462

11104 461

南京來電分二十九號 七月十九日朝接到  
同日午前十時半情報部 於テ發表ス

(昭和三年七月十七日)

新聞記者 討論 漢口市

濟南事件交渉ニ關スル件

十木車中 來來傳代表者 討論 漢口市

秘

發ニ帝國政府ガ山東地方ニ軍隊ヲ派遣シタル目的ガ全ク同地方在留  
邦人保護ニ在リテ何等内政干涉殊ニ北伐軍阻止ノ如キ意圖ヲ有セザ  
リシコトハ當時政府ノ特ニ聲明シタル所ナリ然ルニ圖ラズモ五月三  
日濟南事件ノ突發ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナルガ該事件ハ  
過般帝國政府ノ發表シタル聲明書ニ明カナル通り節制ナキ南軍ノ一  
部ニ依リ惹起セラレタルモノニシテ之ニ對シ日本軍ノ執リタル措置  
ハ軍及居留民保護ノ爲全ク已ムヲ得ザルニ出デタルモノニ外ナラズ  
從テ本事件ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコト明カニシテ又本虐殺事件

外務省

(赤梓紙)

349

S 11104 463

ガ本邦輿論ヲ異常ニ沸騰セシメタルハ御承知ノ通りナリ

然レドモ帝國政府トシテハ日支間ノ親善關係ヲ維持スルノ見地ヨリ  
國民政府ノ謝罪、責任者ノ處罰、日本居留民ノ生命身体財產ニ加ヘ  
ラレタル損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四條件ノ基礎ニ於テ本件ノ解決  
ヲ計ルコトニ決定シ在<sup>七月十六日</sup>上海帝國總領事ヲシテ國民政府ニ右ノ趣旨ヲ  
申入レシメ同時ニ日本側ニ於テハ青島總領事及濟南總領事代理ヲシ  
テ濟南ニ於テ本件交渉ニ當ラシムル管ナルニ付國民政府ニ於テモ連  
カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派シ至急本件ヲ解決セシメラレ  
度旨要求セシ<sup>メ</sup>ルコト<sup>ナリ</sup>

尙我派遣軍ハ前述ノ如ク居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キサルヲ以  
テ此ノ見地ヨリ軍隊派駐ノ必要無シト認ムルニ至ラバ全部撤退スベ

(赤梓紙)

350

S 11104 464

外務省

キコト勿論ナルガ不幸濟南事件ノ突發ニ依リ同地方ノ感情著シク險  
 惡トナリタルノミナラズ今尙便衣隊ノ襲撃事件等絶エザル状態ナル  
 爲遺憾乍ラ今日直チニ全部撤兵ノ運ビニ至リ難シ然レドモ濟南事件  
 ニシテ速カニ解決セラルルニ於テハ同地方ノ感情モ少ナカラズ緩和  
 セラルベク從テ撤兵ノ時期ヲ早ムルノ效果アルベシト信ズ但シ派遣  
 軍ノ兵力ハ濟南事件前後特殊ノ狀況ニ基キタルモノナレバ必ズシモ  
 現在ノ兵力ヲ全部維持スルノ要無キヲ以テ漸次減兵ヲ行フ方針ナリ  
 現ニ事件直後支那沿岸及揚子江流域各地ニ増派シタル軍艦ハ客月中  
 旬ヨリ逐次固有ノ部隊ニ復歸セシメツツアリテ既ニ大部分ノ引揚ヲ  
 了シタルガ山東派遣ノ陸兵ニ付テモ差當リ先ヅ第三師團ノ豫後備兵  
 ナ歸還セシメ約七千ノ召集解除ヲ行フコトトナリ尚引續キ整理  
 ヲ行フ豫定ナリ

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 11104 465

12  
115

昭和七年七月十九日

公表第七號

外 務 省 局 談

曩ニ帝國政府カ山東地方ニ軍隊ヲ派遣シタ目的カ全ク同地方在留邦  
 人保護ニ在ツテ何等内政干涉殊ニ北伐軍阻止ノ如キ意圖ヲ有シテ居  
 ナカツタコトハ當時政府カ特ニ聲明シタ所テアル。然ルニ圖ラヌモ  
 五月三日濟南事件ノ突發ヲ見タノハ誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ所テアルカ  
 該事件ハ過般帝國政府ノ發表シタ聲明書ヲ明カナ通節制ノナイ南軍  
 ノ一部ニ依リ惹起セラレタモノテ、之ニ對シ日本軍ノ執ツタ措置ハ  
 軍及居留民保護ノ爲全ク已ムヲ得サルニ出テタモノニ外ナラナイ。  
 從テ本事件ノ責任ハ全然支那側ニ在ルコトハ明カテ、又本虐殺事件  
 ハ本邦輿論ヲ異常ニ沸騰セシメタノハ周知ノ事實テアル。

352

S 11104 466

併シナカラ帝國政府トシテハ、日支間ノ親善關係ヲ維持スルノ見地  
カラ國民政府ノ謝罪、責任者ノ處罰、日本居留民ノ生命身體財產ニ  
加ヘラレタ損害ノ賠償、將來ノ保障ノ四條件ノ基礎ニ於テ本件ノ解  
決ヲ計ルコトニ決定シ、七月十八日在上海帝國總領事カラ國民政府  
ニ右ノ趣旨ヲ申入レサセ同時ニ日本側テハ青島總領事及濟南總領事  
代理ヲシテ濟南ニ於テ本件交渉ニ當ラシメル筈テアルニ付國民政府  
モ速カニ全權ヲ有スル交渉委員ヲ濟南ニ派シ至急本件ヲ解決セシメ  
ラレ度旨要求セシメタ。

尙我派遣軍ハ前述ノ如ク居留民保護ノ目的ヲ有スルニ過キナイ故、  
此ノ見地カラ軍隊派駐ノ必要カ無イト認メルニ至ツタナラハ全部撤  
退スヘキコトハ勿論テアルカ、不幸濟南事件ノ突發ニ依リ同地方ノ

354

S 11104

467

感情カ著シク險惡トナツタハカリテナク今尙便衣隊ノ襲撃事件等カ  
絶エナイ状態テアル爲遺憾乍ラ今日直チニ全部撤兵ノ遲ヒニ至リ難  
イ、併シ濟南事件カ速カニ解決セラルルニ於テハ同地方ノ感情モ紛  
ナカラス緩和セラルヘク從テ撤兵ノ時期ヲ早ムルノ效果カアルテア  
ラウト信スル。但シ派遣軍ノ兵力ハ濟南事件前後特殊ノ狀況ニ基イ  
タモノテアルカラ必スシモ現在ノ兵力ヲ全部維持スルノ要カ無イノ  
テ漸次減兵ヲ行フ方針テアル。現ニ事件直後支那沿岸及楊子江流域  
各地ニ増派シタ軍編ハ客月中旬カラ逐次固有ノ部隊ニ復歸セシメツ  
ツアツテ既ニ大部分ノ引揚ヲ了シタカ、山東派遣ノ陸兵ニ付テモ差  
當リ先ツ第三師團ノ豫後備兵ヲ歸還セシメ約七千ノ召集解除ヲ行フ  
コトトナリ尙引續キ整理ヲ行フ豫定テアル。

353

S 11104 468

As previously stated, our expeditionary force has for its object only the protection of our residents and it is a matter of course that, when, from this viewpoint, it is found unnecessary to keep the force in Shantung any longer, it will all be withdrawn and recalled home. In view of the embittered popular feeling in the Shantung terrain following the Tsinan Affair and of frequent attacks made by plain-clothes men of the Southern troops, the immediate withdrawal of all the troops of our expedition is, regretful as it is, impossible in the existing circumstances. The speedy settlement of the Tsinan Affair, however, may lead to the quieting down of popular sentiments and eventually to an acceleration of the period of the entire withdrawal. As the strength of the force now in Shantung was based on the special conditions obtaining before and after the Tsinan incident and it is not necessarily needful to maintain it in its entirety, the Japanese Government has in

[S] 11104 470

view

357

view its reduction by gradual processes. The warships that were additionally ordered to various places on the Chinese coast and in the Yangtse Valley have, since the middle of last month, been already recalled to their respective units one after another and the majority of them have now returned home. As regards the military force despatched to Shantung, the men of the first and second reserves of the Third Division numbering approximately 7,000 are scheduled, as a first step, to be recalled and dismissed from the colours and this will be followed by further readjustment of the expeditionary force.

[S] 11104 469


358

Interview given to the Press

Foreign Office, July 19, 1928.

It was specifically declared by the Japanese Government at the time of the despatch of troops to Shantung districts that the action was intended for the protection of Japanese residents in the region and not in the least to interfere in China's domestic affairs, particularly, the northward march of the Nationalist troops. Unfortunately, however, the Tsinan Affair occurred on May 3rd, which is a constant source of regret to us. As was explicitly declared in the statement made by the Japanese Government, the incident was caused by a part of the undisciplined Southern forces and the measures taken by the Japanese force at Tsinan under the exigency of the situation were such as were unavoidable for the self-defence of the force itself and for the protection of our nationals there. It is clear, therefore, that the responsibility for the deplorable incident entirely rests with the Chinese and it was quite

355

 S 11104 472

- 2 -

natural that the cruel murder of a number of our residents greatly excited our public opinion.

The Japanese Government, however, desiring as it does the maintenance and promotion of cordial Sino-Japanese relations decided to seek the settlement of the affair on four conditions, namely, an apology from the Nationalist Government, the punishment of those who were responsible, indemnification for the losses sustained by Japanese residents in lives, persons and property, and a guarantee for the future, and, on July 18th, caused the Japanese Consul-General at Shanghai to communicate its intention to the Nationalist Government, accompanied by a request for the prompt despatch of delegates vested with plenary authority to Tsinan for negotiations with the Consul-General at Tsingtao and the Acting Consul-General at Tsinan who will be ordered to act as Japanese delegates in the negotiations.

356

S 11104 471

AS



電信寫



昭和3 九六二二 暗

南京 本省

七月十九日 前着

附本領事

亞



359

第二九七號 (至急)

矢野總領事ヨリ

往電第四七六號ニ關シ

本官十八日正午南京ニ到着外交部祕書ノ出迎ヲ受ケテ入城シ當日

午後三時王正廷ト會見貴電第一五七號御訓令執行濟委細後電ス

北京、青島、濟南へ轉電シ上海へ暗送セリ



11104

473



電信

秘

昭和三十九年七月十九日  
 上海 十九日前發  
 本省 七月十九日後着  
 亞

田中外務大臣  
 第四七九號ノ一(至急)

南京領事發閣下宛電報第二九七號ニ關シ  
 本官岡本領事ト共ニ王正廷ト其ノ官邸ニ於テ會見(周龍光同席ス)  
 先ツ本官ヨリ御訓令ノ次第篤ト傳達致シタル處王ハ特ニ周ヲシテ  
 其ノ要領ヲ筆記セシメ曰ク御申聞ノ次第ハ好ク諒解セルカ濟南事  
 件解決ニ關シ先ツ日本政府ノ考量ヲ仰キタキハ事件發生ノ原因カ  
 日本ノ不法ナル出兵ニ存スルコト是ナリ日本政府ニシテ此ノ點ヲ  
 充分諒解セラレハ本件ハ自ラ解決スヘシ固ヨリ本件カ日支間ノ

外務省

S

11104

477

記

363

電信案

外務省

S

11104

476

スルヲト

ニ添表ヤ  
 英先ノ合ハ「佛、伊、獨、白、露」ニ轉電シ佛ヲ  
 聯、監、常、西、事、務、局、及、杉、村、轉、報、  
 附記

(原議用紙乙) 國納

362

電  
信  
寫

秘

昭和3 九六四五 暗 上海 十九日前發 亞  
 本省 七月十九日後着

田中外務大臣 矢田總領事

第二七九號ノ二(至急)

次ニ事件其ノモノノ真相ニ付テモ調査ヲ爲シ貴我何レカ若ハ雙方  
 其ノ責ニ任シ謝罪スヘキ事ヲ決定スル必要アリ又死傷ニ付テモ支  
 那側ハ日本側ニ數十倍シ殊ニ國民政府ノ任命セル外交長官カ其ノ  
 事務所ニ於テ殺害セラレタル點ハ頗ル心外ニシテ世論ノ沸騰セル  
 ハ御承知ノ通ナリ是等ノ不法行爲ニ對シテ國民政府ハ日本政府ノ  
 責任ヲ問ヒ在濟南日本軍事長官ノ處罰ヲモ要求セントスルモノナ  
 リ次ニ貴國人ノ生命財産ノ保護ハ撤兵サヘ斷行サルレハ國民政府

外  
務  
省

S 11104 479

365

不幸ナル出來事ニシテ其ノ原因乃至責任ノ那邊ニ存スルヲ問ハス  
 御同様遺憾至極ニシテ國民政府ニ於テモ本件解決ノ一日モ速ナラ  
 ムコトヲ希望シ居レリ然シ國民政府ハ前述ノ如ク山東出兵ヲ以テ  
 濟南事件ノ原因ナリト認メ居ル次第ナレハ其ノ點日本政府ノ所見  
 ト出發點ニ於テ相違シ居ルコトヲ聲明セサルヲ得ス(續ク)

外  
務  
省

S 11104 478

364

電  
信  
寫

秘

ニ於テ完全ニ責ニ任スヘク自分ハ嘗テ山東縣案解決ニ當リ保護ノ  
責ヲ全ウシタル經驗モアレハ日本政府ハ充分信頼セラレテ可ナリ  
(續ク)

外  
務  
省

367

S 11104 480

366

昭和3 九六四三 暗 上海 十九日前發 亞  
本省 七月十九日後着

矢田總領事

田中外務大臣  
第四七九號ノ三(至急)

又南京漢口兩事件ヲ同時ニ解決セントノ御趣旨ハ全然異議ナシ唯  
交渉ノ地點ヲ濟南トスル事ハ不賛成ナリ國民政府トシテハ南京ヲ  
適當ト認ムルモ日本政府ノ同意ヲ得ル事困難ナラハ南京以外ノ地  
點ニテモ差支ナキモ濟南ハ絕對ニ不同意ナリト斷言シ本件發生ノ  
地ニシテ日支間ノ感情最モ疎隔シ居ル地點ノ不適當ナル所以ヲ述  
ヘ殊ニ南京漢口兩事件ヲ一併解決セントセハ猶更ノ事ナリ又交渉  
ノ相手トシテ藤田西田兩總領事ヲ擧ケラレタル事ニ對シ異議ヲ申

外  
務  
省

S 11104 481

立ツル筋合ナラサルモ自分ノ希望ヲ率直ニ申セハ貴官ニ引受ケテ  
貰ヒタカリシナリト云ヘルニ付本官ハ南京事件ヲ指摘シ山東出兵  
ノ居留民保護上當然ノ措置ナル事蔡公時ハ日本側ニテハ外交官ト  
認メ居ラサリシ事先年ノ山東懸案解決ト今回ノ濟南事件トハ全然  
事情ヲ異ニスト一應反駁ヲ加ヘタル後（續ク）

外務省

S 11104 482

368

昭和 九六四七 暗 上海 十九日前發  
本省 七月十九日後着

亞

田中外務大臣

矢田總領事

第四七九號ノ四（至急）

本日ノ訪問ハ政府ノ訓令傳達ノ爲ニシテ濟南事件ニ關シ討論ヲセ  
ンカ爲ニ非サルヲ以テ暫ク之ヲ差控ヘ只本省へ報告上間違ヒ無キ  
様費下ノ所説ヲ今一應念ヲ押シ度シトテ費下カ日本軍ノ撤退ヲ以  
テ本件解決ノ出發點ト爲サントセラルルハ如何ナル意味ナリヤ撤  
兵セサレハ交渉ニ應セサル次第ナリヤト突キ込ミタルニ王ハ然ラ  
ス委員ニ付テハ多分周龍光ヲシテ當ラシムヘク直ニ任命差支無シ  
只交渉ニ當リ撤兵ヲ第一ノ解決要項トシ度シトノ意味ナリト述ヘ

外務省

S 11104 483

369

タルヲ以テ本官ハ右ハ交渉ノ内容ナルニ付交渉開始サルレハ當然  
論議サルヘキ問題ニシテ軍隊引揚後ノ居留民ノ生命財産ノ保護ニ  
關スル國民政府ノ保障ハ日本政府ノ最モ重キヲ置ク處ナルカ右ニ  
依ルモ日本政府カ撤兵ノ方針ヲ決定シ居ル事明白ナラスヤ永久駐  
兵ヲ悞ルルカ如キ口吻ナルモ右ハ斷シテ杞憂ニ過キスト述ヘタル  
ニ王モ其ノ點ハ國民政府ニ於テ懸念シタル處ナリシカ右聲明ニテ  
安心セリト述ヘ日本政府ニ於テ南京（已ムヲ得サレハ上海）ヲ交  
渉地點トスルニ異議無クンハ何時ニテモ交渉開始ノ用意アリ云々  
ト答ヘタリ

S 11104 484

外務省

370

北京、青島、濟南、南京ニ轉電セリ

S 11104 485

外務省

371